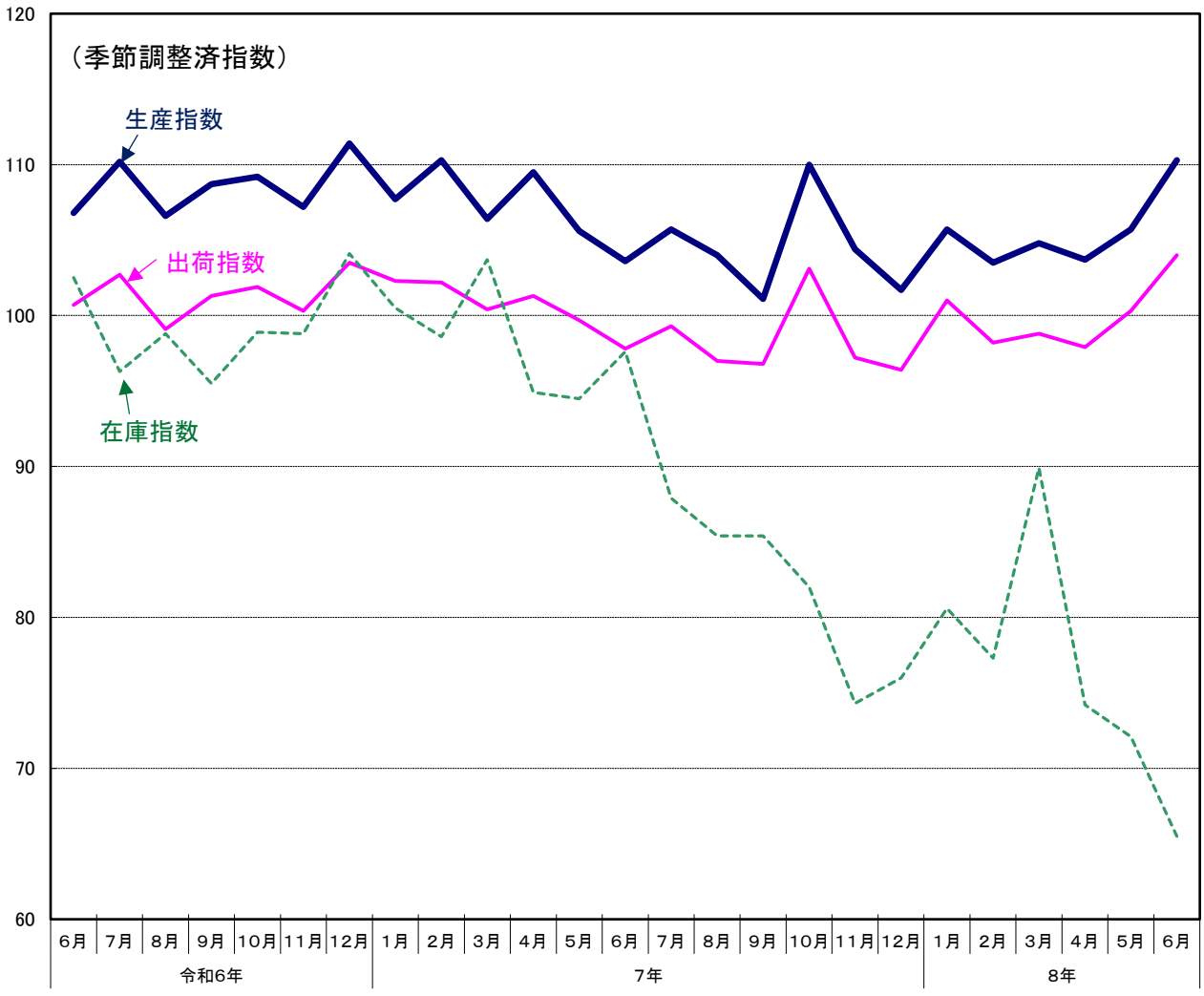
公　表　日
令和８年８月３１日（月）

東京都工業指数月報

令和8年6月分・第2四半期分

東京都工業指数の推移　（令和2年平均＝100.0）



東京都

東京都工業指数の概要

1　目　的

東京都内の工業生産活動の動向を、総合的かつ迅速に把握することを目的とする。

2　指数の基準年次

令和 2 年（2020 年）である。

3　作成の範囲及び分類

(1)　日本標準産業分類大分類Ｅ「製造業」に属する産業の生産指数、出荷指数及び在庫指数について、原指数と季節調整済指数を作成している。

なお、経済産業省の鉱工業指数で採用されている大分類Ｃ「鉱業，採石業，砂利採取業」及びＥ「製造業」の中分類 17「石油製品・石炭製品製造業」は、東京都ではウェイトが小さいため採用していない。

(2)　分類は、日本標準産業分類に基づく業種分類と、採用品目をその用途により財別に格付けした特殊分類の二つである。

4　採用品目

生産指数及び出荷指数は、141 品目、在庫指数は 64 品目である。

5　ウェイト

(1)　生産指数のウェイトは、基準年次の付加価値額でみた各部門、各品目の製造工業に対する比率（１万分比）である。

(2)　出荷指数のウェイトは、基準年次の生産者出荷額でみた各部門、各品目の製造工業に対する比率（１万分比）である。

(3)　在庫指数のウェイトは、基準年次の生産者製品在庫額でみた各部門、各品目の製造工業に対する比率（１万分比）である。

6　算　式

指数の算式は、個別系列を基準時のウェイトで総合する基準時固定加重算術平均（ラスパイレス算式）である。

7　季節調整

景気の動向にかかわらず、１年を通してほぼ規則的に繰り返す季節的な変動要素（気候条件の変化や社会的な慣習、制度等）を取り除くために季節調整を行っている。

東京都では、センサス局法の X-12-ARIMA を使用している。

8　資料の出所

ウェイトの算出に利用した付加価値額、製造品出荷額及び在庫額は、「経済センサス－活動調査」を基礎データとして、「生産動態統計調査」等から得た。

各品目の系列資料は、「生産動態統計調査」、「薬事工業生産動態統計調査」、既存の資料及び業界等の協力によって得ている。

全国の鉱工業指数は、経済産業省大臣官房調査統計グループの「鉱工業指数（生産・出荷・在庫、生産能力・稼働率）、製造工業生産予測指数」による。

9　その他

平成 12 年基準改定において鉱業を採用しないこととしたため、平成 15 年 7 月以降、名称を「東京都鉱工業指数」から「東京都工業指数」に変更した。

東 京 都 工 業 指 数 の 動 向
（ 令 和 ８ 年 ６ 月 分 ）

概 況

― 生産指数は前月比で4.4%の上昇 ―

（令和2年平均＝100.0）

項　目	月	季節調整済指数		原 指 数	
		指 数	前月比(%)	指 数	前年同月比(%)
生 産 指 数	6月	110.3	4.4	117.0	8.0
	5月	105.7	1.9	92.7	△ 1.4
出 荷 指 数	6月	104.0	3.7	110.7	8.0
	5月	100.3	2.5	87.8	△ 0.9
在 庫 指 数	6月	65.5	△ 9.2	69.9	△ 32.9
	5月	72.1	△ 2.8	71.3	△ 23.7

注）指数は、最新月が速報値、それより前の月は確報値である。

1　生産指数

６月の生産指数は、前月比で4.4%上昇し、指数水準は110.3（季節調整済）となった。

電気機械工業、食料品工業等９業種が上昇し、化学工業、輸送機械工業等１３業種が低下した。

2　出荷指数

６月の出荷指数は、前月比で3.7%上昇し、指数水準は104.0（季節調整済）となった。

電気機械工業、食料品工業等７業種が上昇し、業務用機械工業、家具工業等１５業種が低下した。

3　在庫指数

６月の在庫指数は、前月比で9.2%低下し、指数水準は65.5（季節調整済）となった。

電子部品・デバイス工業、業務用機械工業等１０業種が低下し、化学工業、輸送機械工業等１０業種が上昇した。

業種分類別の動向（季節調整済指数）

	前月比上昇				前月比低下			
	業種数	主 な 業 種 名	前月比（%）	寄与度	業種数	主 な 業 種 名	前月比（%）	寄与度
生産指数	9	電気機械工業	18.6	2.4	13	化学工業	△ 9.1	△ 0.9
		食料品工業	15.9	1.1		輸送機械工業	△ 3.0	△ 0.6
出荷指数	7	電気機械工業	9.7	1.3	15	業務用機械工業	△ 14.5	△ 0.9
		食料品工業	17.2	1.0		家具工業	△ 47.3	△ 0.8
在庫指数	10	化学工業	11.8	1.1	10	電子部品･デバイス工業	△ 27.2	△ 4.1
		輸送機械工業	6.3	0.7		業務用機械工業	△ 10.5	△ 2.1

注）　主な業種には、寄与度の上位２位を掲載した。

※寄与度は、各業種の上昇・低下がどれだけ全体を上昇・低下させたかを示す。

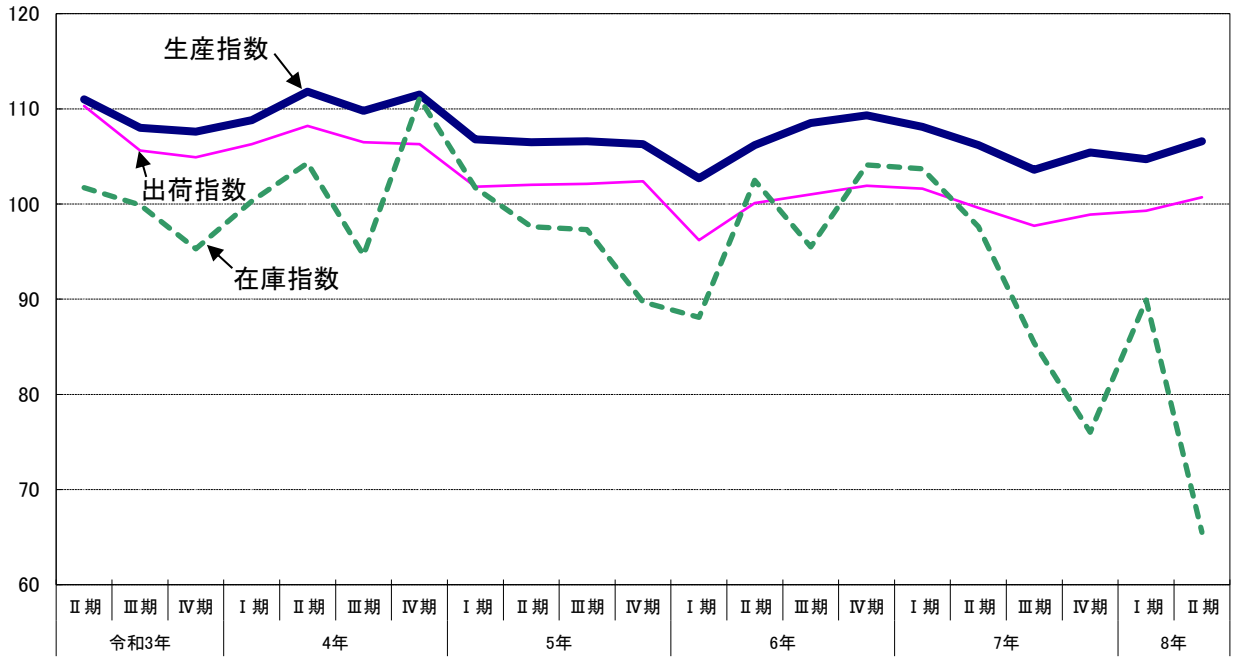
東 京 都 工 業 指 数 の 動 向
（令和8年第2四半期（4～6月）分）

1　工業生産活動の動向

令和8年第2四半期の生産指数は前期比で1.8%の上昇、出荷指数は前期比で1.4%の上昇、在庫指数は前期比で27.1%の低下

令和８年第２四半期の生産指数は、前期比で1.8%上昇した。出荷指数は、前期比で1.4%上昇した。また、在庫指数は、前期比で27.1%低下した。

工業指数四半期別（季節調整済指数）の推移　（令和2年平均＝100.0）



工業指数四半期別（季節調整済指数）の推移　（令和2年平均=100.0）

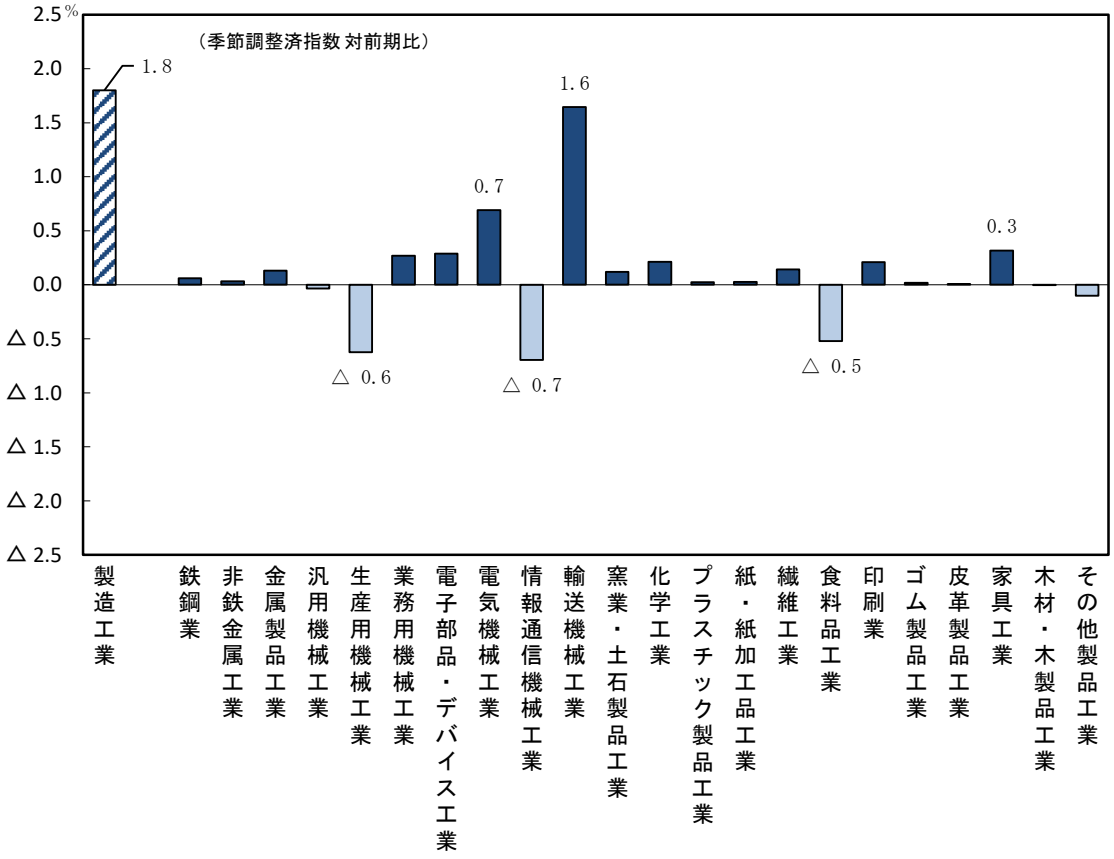
年・四半期	生産指数	前期比（%）	出荷指数	前期比（%）	在庫指数	前期比（%）
令和6年Ⅳ期	109.3	0.7	101.9	0.9	104.1	9.0
7年Ⅰ期	108.1	△ 1.1	101.6	△ 0.3	103.7	△ 0.4
Ⅱ期	106.2	△ 1.8	99.6	△ 2.0	97.6	△ 5.9
Ⅲ期	103.6	△ 2.4	97.7	△ 1.9	85.4	△ 12.5
Ⅳ期	105.4	1.7	98.9	1.2	76.0	△ 11.0
8年Ⅰ期	104.7	△ 0.7	99.3	0.4	89.9	18.3
Ⅱ期	106.6	1.8	100.7	1.4	65.5	△ 27.1

注）指数は、最新の四半期が速報値、それより前の四半期は確報値である。

2　生産指数対前期比の業種分類別寄与度からみた動向（令和8年第2四半期）

輸送機械工業等が上昇に寄与

生産指数の前期比に対する業種分類別寄与度でみると、上昇に寄与した業種は、輸送機械工業、電気機械工業、家具工業等１６業種であった。低下に寄与した業種は、情報通信機械工業、生産用機械工業、食料品工業等６業種であった。

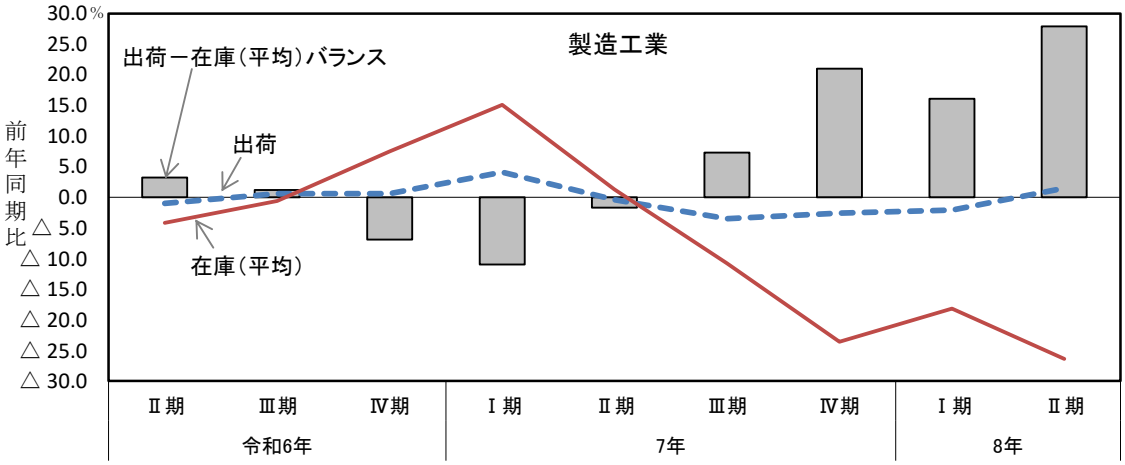


注1）寄与度とは、各業種の上昇・低下がどれだけ全体を上昇・低下させたかを示す。
2）生産指数対前期比とは、直前の四半期の生産指数と比べて、最新四半期の生産指数がどのくらい上昇・低下したかを示す。
3）季節調整は各系列ごとに行っているため、業種分類別寄与度の合計と製造工業（全体）の前期比は必ずしも一致しない。

3　出荷－在庫バランスからみた動向(原指数・四半期別)

出荷－在庫バランスは、プラスで推移した

四半期別の出荷と在庫の前年同期比の差である出荷－在庫バランスをみると、令和８年第２四半期は、プラスとなった。



注）出荷－在庫バランスについて
出荷－在庫バランス（＝出荷の前年同期比－在庫の前年同期比）は景気の先行き予測に利用される。プラス幅の拡大は、在庫水準の低下・生産活動活発化の必要性（景気回復）を、マイナス幅の拡大は、在庫水準の上昇・生産調整の必要性（景気悪化）を示している。